

TOKYO市場情報

平成21年6月29日発行

青森県東京事務所

(担当: 流通観光課 三上)

50号記念

号外

TEL 03-5212-9113

FAX 03-5212-9114

これからもよろしくお願ひします。

めでたく50号を発行することができました。これまでご愛読いただきありがとうございます。

「TOKYO市場情報」の創刊号は、平成18年6月28日のことです。当時の資料を開いていると、一番最初の原稿には「市場見聞き情報」の題名が!! 「TOKYO市場情報」の名前を決める際には、9つの案があったことが、メモに残されていました。

当時の情報は、やや堅め(?)の文章で、市場関係者からの一言や東京青果(株)の市況が掲載されていました。第2号では、県産野菜のシェアやりんごの価格の推移グラフまで掲載し、「この時期、本県からは様々な野菜等が大量に入荷しており、食料供給県としての青森県の地位の高さを改めて実感しました。」と締めくくっています。すばらしいコメントです。

TOKYO市場情報 創刊号

平成18年 6月28日
青森県東京事務所
(担当: 流通観光課 三上)
TEL 03-5212-9113
FAX 03-5212-9114

価格好調! 青森りんご! (大田市場)

春先から続いている低温・日照不足の影響から本来この時期の主役であるメロンやすいかの入荷が少なく、また、低温により動きも鈍い状態。競合果実が少ない状況から食味のよい青森りんごの販売が好調となっています。特に王林は、一時期の低迷を抜け出し、6月中旬の平均単価が前年を上回るkg当たり317円と前年より好調な動きとなっています。



セリ場の青森りんご (サンプル展示)

東一東京青果(株) 6月27日市況 (円/10kg)

	高値	中値	安値	市況
ふし	5,250	3,150	2,625	保合い
シャオブルド	4,725	3,150	2,625	"
王林	4,725	3,150	2,415	"

【市場関係者から一言】

17年産りんごの販売は終盤をむかえているが、本年は品質がよく、味も良い。気温も穏やかに推移しており、メロンやすいかの動きが鈍い。小売ではりんごに頼った販売となっている。ただし、今後気温の上昇や競合果実の入荷増により売りの遅延の可能性はある。

創刊号です。りんごは価格好調だったんですね。

ダジャレでGO! いつから?

第2号以降は、あくまで「気軽に 楽しく 身近に 東京市場の動きを感じられる」ようにとの配慮から(?) カラーを多用し、「!」や「?」や「()」などを散りばめパワーアップ! それでも足りなくて、創刊号から5か月後となる第9号(平成18年11月17日発行)にはダジャレも初登場。スチューベンの記事でした。「そったらこと、あたりまえだ!、みんなして、スッチューベンな!」と言われそうです。は難度が高いですねえ。その後は行けるとこまで突き進むかのように連射します。いくつかを振り返ってみましょう。



巨峰の隣に横まれた本県産「スチューベン」

津軽育ちのスチューベン! (初報)

さて、皆さん、知っていますか? 青森県が「ぶどう」の一産地であることを...!。まっ、ぶどうと言えば、岡山県や長野県の「巨峰」や「ピオーネ」を思い浮かべるかと思いますが、冬場(12月~2月)のぶどうは、本県産「スチューベン」の入荷が最も多いのです。この「スチューベン」、貯蔵性が良いことから、貯蔵しておき冬場に出荷できること、また、糖度も高く美味しいことから人気があり、これからの季節、仲卸等からの引き合いが強くなります。解りましたか? 「そったらこと、あたりまえだ!、みんなして、スッチューベンな!」と言われそうです...が m(_ _)m...、今年も甘〜いスチューベンの入荷が始まっています。

第9号で登場した初ダジャレ。

あっ! いいう〜えっ「王林」が!
「枝もの」って! え〜もんだ!
「さくらんぼう」! お〜とっと!

第32号 タイトル集です。



まっ、本県産「ながいも」に比較して、多少肌が黒い気味ですが、粉れもない茨城県産の「ながいも」です。

茨城県産「ながいも」です!

年明けでも「ながいも」の価格は高いまま(いやいや、元の状態に戻っただけ...)です。昨年と比較して本県産「ながいも」の入荷量が少ないこと、また、市場全体としても少なめとなっていることが、堅調な相場の要因となっているようです。まずは一安心です。さて、「ながいも」というと本県産や北海道産をイメージしますが、ここ大田市場には茨城県産「ながいも」も入荷しています。なんと、大田市場への入荷量は全国第3位で、真空パック詰めでの出荷です。隣の千葉県や埼玉県はネバりの強い「ヤマトイモ」が主流だけに、「う〜ん、なぜだろう...」しかし、ここまでの産地を作り上げるとなると、「いばらの道」だったことは容易に想像が...。各産地とも頑張ってます!

第28号 茨城産ながいもの産地化は「いばらの道」。

大人気の「いちご」よ! お前もか〜!

12月は「いちご」の季節。だって街のあっちから「おジャムベリー〜シングルベリー」と聞こえてきます...。えっ、聞き間違い!...タラ〜タラララ〜。それはさておき12月の「いちご」は引張りだこ(タコじゃありませんけど...)。クリスマスケーキに真っ赤な「いちご」は欠かせません。このため例年、価格は高く「とちおとめ」「あまおう」等の各県自慢の品種が入荷します。今年も〜と行きたい所でしたが今年の結果は...。景気が後退〜ケーキも後退(大ささ)〜「いちご」の数が減少〜数量が割れず価格下落〜厳しい状態へ...。年明け後も、昨年の9割の価格で...産地ではちょっと不満げ...。この局面の打開には産地と市場が一掃になった販売努力が必要...合い言葉は「一致、GO」です!



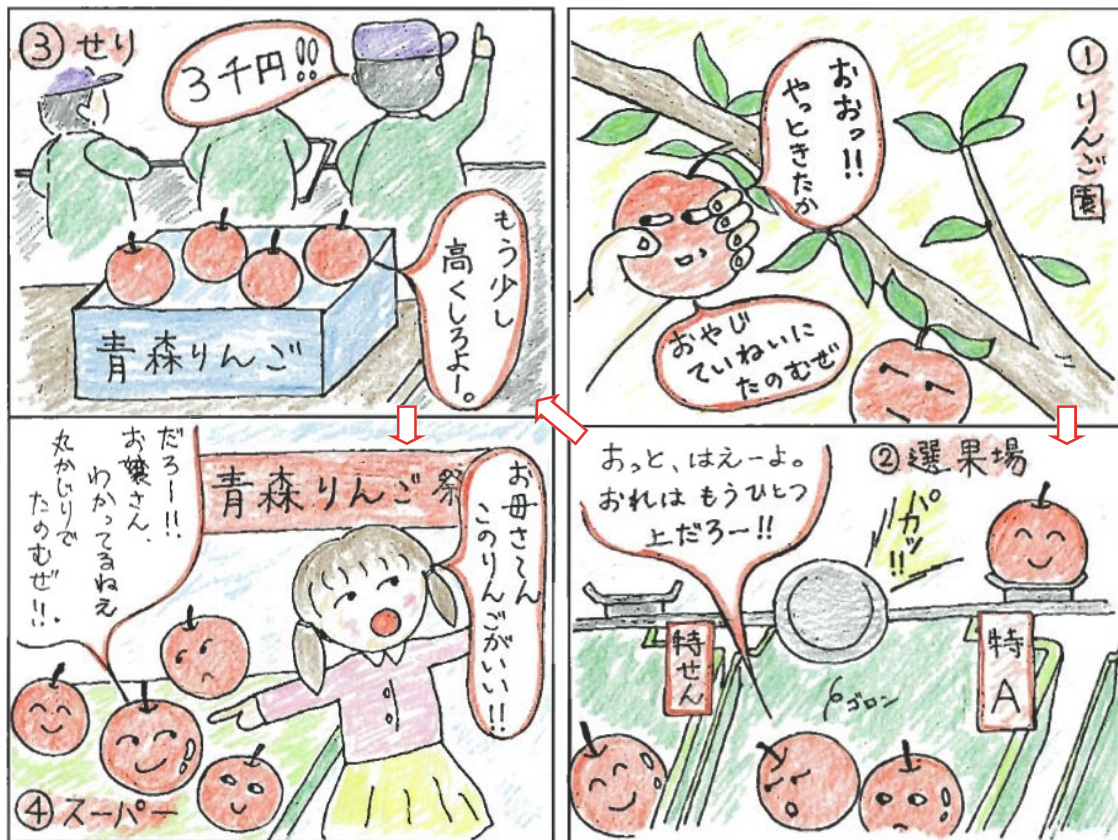
静岡県産「紅ほっぺ」(JA遠州夢咲)も入荷中。果皮が鮮やかな赤、さらに果肉の中まで赤いのが特徴です。

第45号 ケーキも後退、販売強化の合い言葉「一致、GO」

読者を引きつける要素がふんだんにあります。

でも知ってました? 「食べ方の周知が必要だ」「産地と市場の連携が必要だ」「日持ちが心配」「継続出荷が必須」などの率直な意見が盛り込まれているのですよ。

チョット一息「りんごの気持ち」上から目線Ver.



りんごになったつもりで書きました。かなりりんごの気持ちを想像しながら買ってもらえるとうれしいですね。ところで東京ではバラ売りが多く、袋詰めも少ない個数が一般的です。試食宣伝販売で購入者に鮮度保持袋を差し上げるとしても喜ばれるそうです。

市場人Information



東京青果(株) 平山 吉孝さん



弘前生まれ弘前育ちの平山さんは、大学卒業後、昭和48年に東京青果(株)へ入社以来りんご一筋。入社3年目から25年間せり台に立ち、現在は果実第一事業部の課長です。かつてのせりは、1人で全国のりんごを1時間かけて売っていました。「ほしい人に落札すること」でリピーターが増えるとのこと。かなり難しそうです。

そんな平山さんは、中学から大学までバレーボール部で活躍し、大学では東北制覇も経験した元々(?)スポーツマン。自身の実家もりんご農家で、「日本一のりんご産地 青森」を自負し上京したのですが、入社後に他県のすばらしいりんごを見て愕然とした思い出があるとか。

「私は青森で育った青森県人。だから青森に恩返ししたい」との思いから、最近では「早生ふじ」の販売に尽力するなど青森りんごの販売に大きく貢献いただいています。

青森りんごのこれからについて「最近の販売は消費形態の変化から量販店向けに変化した。培ってきた販売ルートでこれまでどおり売るのはではなく、消費地の実態を肌で感じながら販売方法を変化させる必要がある」とのことでした。納得。

- ・昭和25年生まれ
- ・前京浜関東青森りんごの会会長で、現在は、全農あおもり果実研究会理事や卸売市場青森県人会幹事長としても活躍
- ・趣味はゴルフ
- ・人生の半分以上が東京でも津軽弁は忘れてません。



第50号記念の号外なので、前任者に怒られるかとも思いながらも、思い切ってお祭り気分で作りました。初登場の「市場人Information」は青森県産の販売に携わる方を紹介するコーナーです。東京市場には青森県産に愛着を持って販売している方がたくさんいます。うれしくもあり頼もしくもありです。反響が大きければ連載もいいかなあと思っていますので、御意見をお聞かせ下さい。左写真は5月下旬に入荷した青森産たけのこ。山菜採りに行きたくなります。